

レコード軽術



Vol. 208

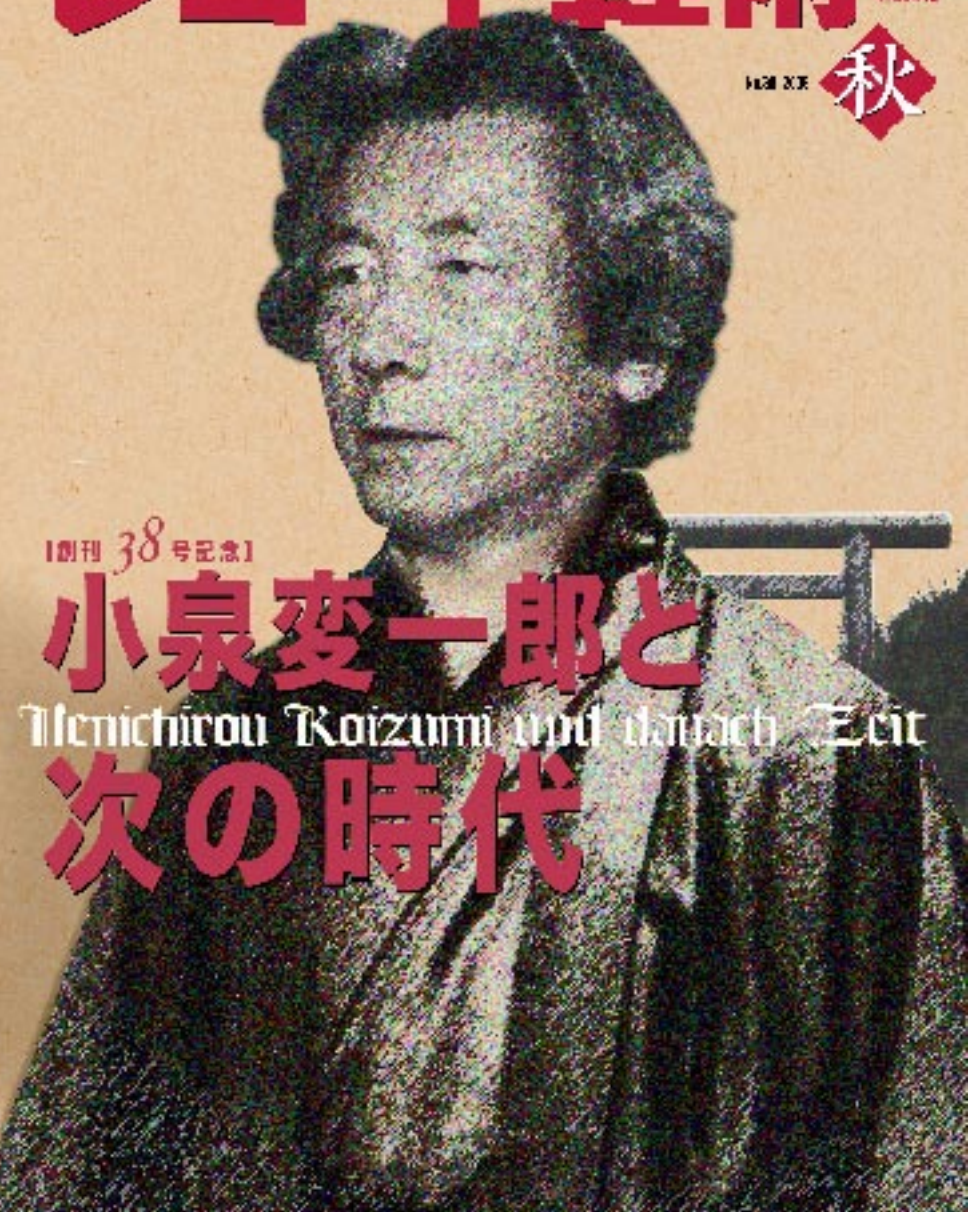
秋

[創刊 38 号記念]

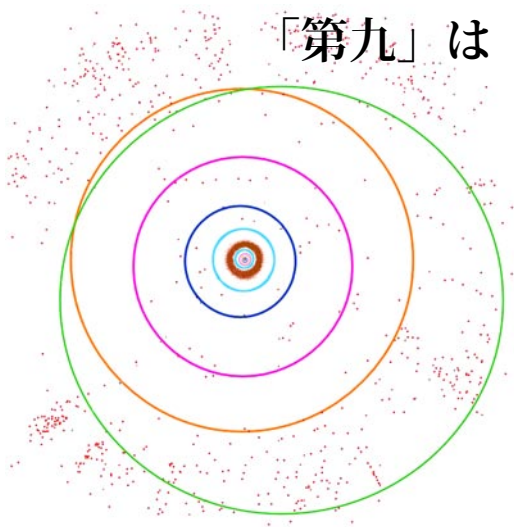
小泉変一郎と

Nemichirou Koizumi und danach Zeit

次の時代



「第九」は「広響曲」に昇格



声楽入りの交響曲はそれまでの交響曲の拡張と捉え、新たな分類を行いました。

ベートーヴェンの交響曲は全 8 曲になりました。

- シューベルトの交響曲の数はこれまで通り計 8 曲。
- ブルックナーの 9 番は未完成で、時間的にもほかと同等に扱うことには無理と判断して除外し、交響曲は計 8 曲。
- マーラーは声楽入りの 4 曲を除いたため計 5 曲。
- ショスタコビッチは 15 曲から 9 曲へ



2007 年 1 月から全店舗で新分類展示開始

P&G Music Inc.

ピアノ界にプリンス来たる

クールなテクニックとスタミナ！期待の新人



斎藤 悠貴 CDデビュー



神童と謳われた頃のエピソードは数知れず。モーツァルトの「トルコ行進曲」を演奏中3回も汗を拭いたが、いささかの乱れもなかったことは有名。

お買い上げ先着 100 名様にネルのCDふきを贈呈

小泉変一郎と次の時代

司会 五年あまりの間、永田町管弦楽団の常任をつとめた小泉変一郎が安部三振に代わることになりました。本日はこの間に発売されたディスクを取り上げ、次のオーケストラの行方を論じてみようと思います。



A.. 良くも悪くも小泉が来てオケは変わりましたね。アンサンブルがよくなったわけではないけれど、パートごとにまとまらずれるというような破綻はなくなりました。

B.. オケのコントロールについては経験

豊かとはいえないでしょ、あの人は。もともとチェリストだし。オケも最初はとまどっただろうなあ。



C.. 03年秋にドン・キホーテのソロを弾いていますが、猪突猛進、あの勢いでやっちゃったという感じが

ですね。頑としてテンポに従わない一団もいたけれど、それも計算済みだった。

B.. ぼくが面白かったのはそのすぐ後だなあ、03年では春の「コシ・ファン・トゥツテ」とか秋の「こうもり」とか、軽めのおペラがよかった。配役の抜擢と生かし方がうまい。



C.. 権力抗争を手玉にとって楽しむとい

うか。

A… オペラ劇場型展開というか、ツボを心得ている。



B… でも、重厚さが要求される曲ではこれといったものはなかったね。

A… 05年春にソリストにライスを迎えてやった「皇帝」では終始引きずられっぱなし。

B… 彼女アメリカ人でしょ、小泉という人はアメリカ大好きなんだけど、今ひとつわかってないんじゃないかなあ。

C… そう、04年秋の

「スーザ行進曲集」なんか聴いてごらんないな、

「星条旗よ永遠なれ」で、



のめり込んでることはわかるけれど、あれーって感じでしょ。指導者たるもの、本人が陶醉してたらダメ。

B… そういう欠点が出たのが05年秋のシヨスタコ



ビッチだな。《革命》だ《革命》だと押し込むだけで、終わってみると何も新しいことはなかったじゃないかという印象。

A… やっぱり退け時だったのかもね。

司会 次の常任指揮者に望むことは？

A… 若いものだから、お祖父さんの使ったスコアなど使わないで欲しい。

B… 楽員の技術の格差解消。S席とC席の価格差を縮小。

C… 借金を返す。

新譜
月評
月評

交響曲

宇野咆吼

新譜月評 The Record Keijutsu 交響曲

■ハイドン…交響曲第100番《軍隊》他



岸信夫指揮 永田町管弦
楽団

五年あまり続いた常任指揮者の小泉変
一郎が安部三振に代わった永田町管弦楽

団の新譜である。新譜といっても、これはかつてLPで出た演奏のCDによる再発売。安部が進める「再評価シリーズ」の第一弾である。初回は安部の祖父である岸の現役時代の録音である。祖父を思う気持ちがそうさせたのだろう。おこがましいとは感じるが、まだ実績のない新常任指揮者だから大目に見ておこう。

さて、このディスクが再評価に足るのか、これには疑問が多い。演奏技術は大時代的で、当時のスタイルにマンネリ的に収めているような覇気のない表現である。発売当

時の評判はどうだったのか資料を探してみたが見あたらなかった。忘れられても仕方ない程度の演奏だったことがわかる。

安部は就任にあたって初の戦後生まれの常任指揮者であることをアピールしている。また「美しい音」を永田町管弦楽団から引き出すという。しかし、取り上げたのはこの古色蒼然とも言いたい祖父の演奏だ。

これをもとに「戦後体制からの脱却」というのなら、話を通じるように見えるが、当時でさえ、「もう戦後は終わった」というフレーズはあったのだ。50年もあるとの21世紀の今日においてなおも「戦後」

云々はあるまい。一気に時代が逆戻りしたかの印象さえ受けた。

そもそも、安部三振のどこがよくて拔擢されたか、いまひとつ納得がいかない。彼を一躍有名にしたのが、モーツアルトの歌劇「後宮からの逃走」であることは疑いない。囚われの身になった許嫁を救い出すこの歌劇は彼の資質に合う。しかし、成功を導いたのは、前任者の息のかかった「小泉劇場」と評された華麗な演出があったからであり、それも彼を後任として押し出されためのお膳立てに過ぎなかったとあれば何が残ろう。今後の指揮ぶりは厳しく見守っていく必要がある。

「録音評」 当時としても水準に達せず。ダイナミックレンジは狭く、強奏は混濁気味。内声の「音なき音」が聞こえない。恣意的に右チャンネルが強調されているようだ。

新譜月評

管弦楽曲

藤田由々

新譜月評 The Record Keijutsu 管弦楽曲

ほか
■イタリア・オペラ序曲集《運命の力》



小沢政治指揮 はや
ぶさフィル

はやぶさフィルは永田町管弦楽団の近くに居を構える、永田町管弦楽団と比べれば若い団体である。

演奏は手堅いの一言に尽きる。スタイルが古いといわれるが、精緻な分析、ぶれない表現、人気だけの新人指揮者にはできない芸である。

ときに剛腕といわれながら楽壇をわたってきた小沢も、今や60代半ば。先頃も長期休暇を取り、健康不安がささやかれるようになった。本人曰く、この序曲集は一つの集大成だという。序曲ばかり集めて自分の

芸術の集大成とは、慎ましいやら情けないやらであるが、それも小沢の歩んだ道を象徴しているといえよう。

彼の才能の一つにオーケストラの分離独立を画策することがある。いったいオーケストラをいくつ作ったのだろうか。新しい運営方針はいくつも出されたが、実際に移されるまでもなくオケと共に消滅する。そして残ったのは何？この業界に新陳代謝があるのは望ましいことだが、彼がいたことがはたして全体のためになったか？

この問題の根底には、小沢が人材を育ててこなかったことがあげられよう。は

やぶさフィルの若手は技量不足だし、かつて慕ってきた楽員の中にはライバルの永田町管弦楽団で活躍している者も多い。

この演奏には、「手兵に見放されたマエストロ」に同情し、かつてのいきさつを乗り越え多くの楽員が集まったという。そのせいか、いつになく軽妙なりズム、色彩豊か。本人のいう「ニュー小沢」は本物という印象を受けた。

この調子で序曲に終わらずスケールの大きな名曲にも臨んでいくのだろうか、いや、「ニュー」が付いても小沢は小沢、これまでの路線が顔を出して終わるか、そこには「運命の力」がかかっている。

「録音評」 左右の広がりはずまず。定位も良い。そのため、曲ごとに配置が変わるのがよくわかる。左右のバランスを細かく考慮した結果であろうが、落ち着かない。

新譜月評

室内楽曲

諸君幸生

新譜月評 The Record Keijutsu 室内楽曲

■モーツァルト…音楽のたわむれ《村の音楽家の六重奏》



応募によるアマチュ
ア 10 団体

モーツァルト・イヤーに合わせ、これは奇抜な企画だ。全国のアマチュア・アンサンブルによる標題の音楽のたわむれ K522 ばかりのアルバムだ。北海道から沖縄まで全10団体が参加。

この曲はモーツァルトがへたくそな素人アンサンブルを皮肉ったもので、調子外れのホルン、おかしい和音が頻出する弦楽器、作曲技法としても平行五度など、当時の音楽としては奇妙なところばかり出てくる曲である。

この曲の演奏は、へたくそに聞こえても

いいが、楽譜に忠実に弾くのはかなり難しい。収録する演奏団体の選考にあたっては、二通りの審査基準が設けられた。

一つは楽譜通りに演奏することが必須。これはテクニクと表現の豊かさが求められる。どこまでプロの団体のすること、に近づくかが評価されるわけだ。もう一つは楽譜に忠実でなくても楽しくやっている雰囲気が出ていればいいというもの。楽器編成は自由で、多少の編曲も許容される。要するにユーモア部門である。7 団体がこの部門だ。

ホルンの独壇場。ホルンに代わって水道ホースや尺八、ノコギリまで登場、アイデア対決の場となった。

聴いているうちにあることに気がついた。収録場所と演奏との相関だ。〇〇公民館だとか、厚生なんとか会館で収録したのは概してつまらない。公共施設に頼らず、自分たちだけでやっていこうという姿勢がよい結果をもたらすのだろう。地方の活性化が叫ばれているが、国は金をばらまけば何かが育つわけではない。文化の育成に一番大切なのは何か、その問題を投げかけてくれるディスクである。

「録音評」 録音機材は公共施設の借り物から個人所有、さらには部品を集めての自作まで、バラエティに富む。演奏評のところで触れられているように、自前派大健闘。このような企画をきっかけに優秀な録音技術者が発掘されるかもしれない。

このリモコン使いこなせる？



できなかつたら運転してはいけません

安全運転のための車載用CD / DVDプレーヤ新発売

アルコール・センサを内蔵、リモコンの右側で飲酒量、前回聴いたCDの記憶などを自己申告し、辻褄が合わないとエンジンがかかりません。操作はわざとややこしくしてあり、酩酊していなくても睡眠不足などで判断力が低下しているとパスしません。



景品回収のお願い

オペラ・アリア集「権力者の最期」を買われた方にお願
いです。

景品として抽選で松茸セッ
トが付く企画が好評頂いてお
りますが、当社の調査でその
松茸は中国産に偽装された北
朝鮮産のものであることがわ
かりました。

経済制裁下、北朝鮮が受け
取った外貨は核開発に使われ
る可能性があります。

まだ食べていない方は純国
産の松茸と交換します。



好評発売中

ドン・ジョバンニ、スカルピア、…
悪役たちの最期の声を網羅
オペラアリア集「権力者の最期」



新ファンド発進！

高値が続く原油。これは中国の需要増などによる構造的なもので、基調は今後も変わりません。C D、D V Dの原料も原油。皆さん、聞かない・見ないディスクは処分する前にこの資源を投資物件として考えませんか？

当ファンドでは、お客様からディスクを預かり、需要やりサイクル技術の進展を見計らって運用します。

直径 12cm の光るディスクが銀貨以上になるかも？ご期待ください。

受付担当：村上 世直志



不要C Dをお持ちの読者の方々に 10 枚で証書一枚を発行します。

C D引換券 オントモグループ

有効期限 2006.10.1

オントモ燃処理（株）

編集後記

北朝鮮が核実験をやりそうだというニュースが制作中に入りました。それだけでも重要なテーマ、どうしてもネタにしたいと、近所に撮影に行ったり素材集めをしました。

恐れていたことが現実になったのはその後でした。パロディにするのには深刻すぎたかも知れません。困ったことが起きたものです。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを <http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa> で見ることができます。予約もここからメールで受け付けています。

レコード軽術 '06 年秋号（通巻第 38 号）

2006.10.13 第 1 刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町 539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

s_yanagawa@jcom.home.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp

印刷・製本 家内工業

